

細胞材料で全ての扁平上皮細胞の中、 角化細胞が90%以上を占める症例

- 細胞材料で全ての扁平上皮細胞の中、角化細胞が占める割合を検討したという報告はない。
- 組織学的には大きく分けて2系統の報告がある。
- 1つの系統(Jakobbson) (Crissman)はCISの腫瘍細胞の中の角化細胞の割合は高く(Jakobbson)、50%以上(Crissman)で、微小浸潤癌では中等度(Jakobbson)で20-50% (Crissman)、浸潤癌では最少(Jakobbson)で5-20% (Crissman)である
- もう1つの系統(WHO)は高分化型SCCの角化は顕著に厚い像を示す。更に疣贅(いぼ)状型SCCは角化型表層細胞は厚く、深層の陥入部分まで分布し、角化と過形成が極めて厚い層になっている。誤診は生検材料がこの厚い角化層の下の間質組織まで十分に採られていない時に起こる。
- 細胞像のこの項目は高分化型SCCとCISの角化層が非常に厚くなっていることから由来すると考えられる。WHOの高分化型SCCは今回のこの項目を裏付ける。

結論

- 通常の悪性の細胞学的判定基準は今日まで核異形によってなされて来た。しかしながら、口腔高分化型SCCとCISではその判定基準では困難な症例が出現する。
- 今回の口腔SCCとCISの検討は細胞質の5つの情報が鑑別診断に重要であることを証明する。